

平成17年3月期 第3四半期業績の概況(非連結)

平成17年2月4日

上場会社名 株式会社ソフトフロント

(コード番号: 2321 G)

(URL http://www.softfront.co.jp)

代 表 者 代表取締役 村田 利文 TEL(011)623-1001
 問 合 せ 先 責任者 取締役/CFO 山本 明彦

1. 四半期財務・業績の概況の作成等に係る事項

- 会計処理の方法の最近会計年度における認識の方法との相違の有無 : 有・無
 連結及び持分法の適用範囲の異動の状況 : 有・無
 公認会計士又は監査法人による関与の有無 : 有・無

2. 平成17年3月期第3四半期の業績概況(平成16年4月1日～平成16年12月31日)

(1) 経営成績の進捗状況

	売 上 高	営 業 利 益	経 常 利 益	当 期 (四 半 期) 純 利 益
	百万円 %	百万円 %	百万円 %	百万円 %
17年3月期第3四半期	298 45.1	197 -	218 -	263 -
16年3月期第3四半期	543 18.8	69 -	32 -	27 -
(参考)16年3月期	744 -	116 -	69 -	92 -

	1株当たり当期純利益	潜在株式調整後 1株当たり当期純利益
	円 銭	円 銭
17年3月期第3四半期	4,109.92	-
16年3月期第3四半期	438.75	-
(参考)16年3月期	1,460.07	-

- (注) 1. 売上高、営業利益等におけるパーセント表示は、対前年同四半期比増減率を示しております。
 2. 1株当たり当期純利益については、平成16年11月19日に行われた株式分割が前期首に行われたと仮定した場合の数値を記載しております。

(2) 財政状態の変動状況

	総 資 産	株 主 資 本	株 主 資 本 比 率	1株当たり株主資本
	百万円	百万円	%	円 銭
17年3月期第3四半期	1,170	809	69.2	11,166.90
16年3月期第3四半期	738	410	55.6	6,412.52
(参考)16年3月期	854	475	55.7	7,429.24

- (注) 1株当たり株主資本については、平成16年11月19日に行われた株式分割が前期首に行われたと仮定した場合の数値を記載しております。

【キャッシュ・フローの状況】

	営業活動による キャッシュ・フロー	投資活動による キャッシュ・フロー	財務活動による キャッシュ・フロー	現金及び現金同等物 期 末 残 高
	百万円	百万円	百万円	百万円
17年3月期第3四半期	32	44	550	777
16年3月期第3四半期	110	62	90	180
(参考)16年3月期	64	20	28	238

3. 平成17年3月期の業績予想(平成16年4月1日～平成17年3月31日)

	予 想 売 上 高	予 想 経 常 利 益	予 想 当 期 純 利 益	1 株 当 た り 予 想 当 期 純 利 益
	百万円	百万円	百万円	円 銭
通 期	460	245	295	-

1. 業績の概況(平成16年4月1日～平成16年12月31日)

(1) 業績全般

当第3四半期会計期間(平成16年4月1日～平成16年12月31日)におけるわが国経済は、経済の回復を遅らせてきた構造的な要因の調整が徐々に進んできたと同時に、輸出・生産の増加が企業収益の好転や設備投資の拡大を促し、これが雇用・所得面の回復を通じて家計にも波及するという流れが維持されてきたものの、輸出・生産の増勢に足許の不服感が出始めたこと、原油価格が高水準で維持されたこと等により、先行きに対する見通しは、依然、不透明な状況が続いております。一方、IT関連の分野においては、IT関連財の在庫調整が懸念されているものの、デジタル家電や自動車用電子部品等で需要の裾野が従来よりも広がっており、全体的な在庫調整は軽微である可能性が高いとの見方が示されております。特にデジタル家電の分野においては、通信プロトコルについてSIPの利用が有力視されており、家電メーカー等を中心にSIPに対する関心が一層高まってきております。

このような市場環境の中、当社では、前期同様、「SIPパートナープログラム」に経営資源を集中的に投下し、製品開発においては、平成16年8月に「2004年度版SIPパートナープログラム」をリリースする等、「SIP」関連ソフトウェアの提供に注力してまいりました。しかし、営業面においては、1)「SIP」マーケットが当期に入り、当社の予想を上回るスピードで「初期市場」から「普及期市場」へ急速に進化し始めたことに伴う当社マーケティング戦略の見直しと対応に遅れが出たこと、2)パートナー企業数増加に対応した営業リソースの増強に時間を要していること等により、営業実績については前年同期実績を大幅に下回る結果に終わりました。マーケティング戦略については、販売チャネルを整理し、これまでの直販ルートに加えて新たに代理店ルートを設定すると共に、営業リソースについては、採用活動を通して増強を図っているものの、当第3四半期会計期間においては、これらの成果を十分に発揮させるまでには至っておりません。

この結果、当社の当第3四半期会計期間の業績は、売上高298,756千円、営業損失197,009千円、経常損失218,088千円、第3四半期純損失263,861千円となりました。

売上高につきましては、前述のとおり、マーケティング戦略の見直しと対応に遅れが出たこと、及び営業リソース増強に時間を要したことから、平成16年8月に「2004年度版SIPパートナープログラム」をリリースすると共に、新たな販売チャネル構築を行い、限られた営業リソースのより効率的な運用を開始したものの、それらの成果を当第3四半期会計期間にはまだ充分には盛り込むことができず、298,756千円(前年同期比45.1%減)と前年同期実績を245,013千円下回る大幅な減収となりました。

売上総利益につきましては、継続的な原価管理体制の強化により売上原価が144,411千円(前年同期比18.8%減)と前年同期実績を33,504千円下回ったものの、売上高が前年同期実績と比較して減少したことから、154,345千円(前年同期比57.8%減)と前年同期実績を211,508千円下回りました。

販売費及び一般管理費につきましては、本社オフィススペースの削減、リース・レンタル物件の整理等により、地代家賃、賃借料等が前年同期実績を下回った他、前期に引続き経費全般について削減に努めたものの、「SIP」関連製品開発等のための研究開発費、外形標準課税の導入に伴う租税公課の増加等に伴い、351,355千円(前年同期比18.5%増)と前年同期実績を54,752千円上回る結果となりました。

営業損益につきましては、売上総利益で販売費及び一般管理費を吸収することができなかったことから、197,009千円の営業損失(前年同期は69,251千円の営業利益)を計上いたしました。

経常損益につきましては、営業外費用が22,942千円(前年同期比48.3%減)と、営業外収益1,863千円(前年同期比76.3%減)を上回ったことから、218,088千円の経常損失(前年同期は32,768千円の経常利益)を計上いたしました。なお、営業外収益につきましては、前第3四半期会計期間において助成金収入などを計上していたことから前年同期実績を下回り、営業外費用につきましては、新株予約権発行費及び株式分割や第三者割当増資に伴う新株発行費を計上したものの、家賃負担が減少したことから、前年同期実績を下回りました。

税引前第3四半期純損益につきましては、特別利益及び特別損失が発生しなかったことから、経常損益と同様、218,088千円の税引前第3四半期純損失(前年同期は29,315千円の税引前第3四半期純利益)を計上いたしました。

第3四半期純損益につきましては、当第3四半期会計期間において繰延税金資産44,347千円の全額を取崩し同額の法人税等調整額が発生したことから、263,861千円の第3四半期純損失(前年同期は27,890千円の第3四半期純利益)を計上いたしました。

(2) 研究開発活動

当第3四半期会計期間における研究開発については、市場投入する「SIP」関連新製品の開発に加えて、「普及期市場」攻略に向けた「SIP」関連製品の開発に注力したことから、118,324千円(前年同期比124.5%増)と前年同期実績を65,621千円上回りました。

2. 当期の見通し

(1) 業績見通し

業績見通しにつきましては、本日(平成17年2月4日)付けにて別途開示いたしました修正予想の通り、以下の見通しとなっております。

通期業績予想の修正(平成16年4月1日～平成17年3月31日)

(単位：百万円、%)

	売 上 高	営 業 利 益	経 常 利 益	当 期 純 利 益
前回発表予想(A)	760	49	23	21
今回修正予想(B)	460	220	245	295
増減額(B - A)	300	269	268	316
増減率(%)	39.5	-	-	-
(参考)前期実績 平成16年3月期	744	116	69	92

(2) 業績予想の修正理由

当第3四半期会計期間の売上高は、「SIP」マーケットの急速な進化に伴う当社マーケティング戦略の見直しと対応に遅れが出たこと、営業リソースの増強に時間を要していることから、平成16年8月に「2004年度版SIPパートナープログラム」をリリースすると共に、新たな販売チャネル構築を行い、限られた営業リソースのより効率的な運用を開始したものの、それらの成果を当第3四半期会計期間にはまだ充分には盛り込むことができず、当初予想を大幅に下回る結果となっております。

当社では、現在、急速な勢いで「普及期市場」へ進化しているSIPマーケットに対応するため、これまでの直販ルートに加えて、新たなマーケティング戦略の遂行による代理店ルートを活用した販売チャネルの整備拡充等を図っておりますが、これらの成果が本格的な数字として現れるのは、来期以降になると想定されることから、これらの施策が予定通りの成果を上げた場合であっても、当第3四半期会計期間までの損失分をカバーするのは、非常に難しい状況にあると認識しております。

これらの状況に鑑み、通期売上高につきましては、予想を下方修正(通期増減率 39.5%)いたします。また、各利益につきましても、経費全般に対する予算執行を厳格化することで削減に努めてまいりますが、売上高の減少分をカバーするには至らないものと想定されることから、通期の予想を下方修正いたします。

3 生産、受注及び販売の状況

(1) 生産実績

当第3四半期会計期間の生産実績を主要販売形態別に示すと次のとおりであります。

(単位：千円)

区 分	当第3四半期会計期間 〔自 平成16年4月1日〕 〔至 平成16年12月31日〕	前年同期比(%)
ソフトウェア販売	53,259	136.3
受 託 開 発	91,152	67.2
合 計	144,411	81.2

(注)1.金額には、消費税等は含まれておりません。

2.ソフトウェア販売の金額は、ソフトウェア提供のための製造原価を記載しております。

(2) 受注状況

当第3四半期会計期間の受注状況を主要販売形態別に示すと次のとおりであります。

(単位：千円)

区 分	受 注 高		受 注 残 高	
		前年同期比(%)		前年同期比(%)
ソフトウェア販売	160,767	53.5	16,942	25,250.2
受 託 開 発	145,541	46.4	17,421	16.7
合 計	306,308	49.5	34,363	32.8

(注)金額には、消費税等は含まれておりません。

(3) 販売実績

当第3四半期会計期間の販売実績を主要販売形態別に示すと次のとおりであります。

(単位：千円)

区 分	当第3四半期会計期間 〔自 平成16年4月1日〕 〔至 平成16年12月31日〕	前年同期比(%)
ソフトウェア販売	144,449	46.6
受 託 開 発	154,307	67.5
合 計	298,756	54.9

(注)金額には、消費税等は含まれておりません。

4. 第3四半期財務諸表

(1) 第3四半期貸借対照表

(単位：千円)

科 目	当第3四半期 会計期間末 (平成16年12月31日現在)		前第3四半期 会計期間末 (平成15年12月31日現在)		前事業年度の 要約貸借対照表 (平成16年3月31日現在)	
	金 額	構成比	金 額	構成比	金 額	構成比
(資産の部)		%		%		%
流動資産						
1. 現金及び預金	852,210		225,253		313,352	
2. 売掛金	114,039		208,052		267,925	
3. たな卸資産	70		2,651		80	
4. 繰延税金資産	-		-		44,347	
5. その他	15,177		20,313		33,400	
貸倒引当金	1,060		1,783		2,891	
流動資産合計	980,436	83.7	484,487	65.6	656,214	76.8
固定資産						
1. 有形固定資産	10,211		13,323		12,351	
2. 無形固定資産						
(1) ソフトウェア	136,843		148,207		149,091	
(2) その他	1,246		1,246		1,246	
無形固定資産合計	138,089		149,453		150,337	
3. 投資その他の資産						
(1) 差入保証金	29,334		86,707		29,334	
(2) その他	21,547		16,893		18,342	
貸倒引当金	8,670		12,710		12,443	
投資その他の資産合計	42,211		90,890		35,233	
固定資産合計	190,512	16.3	253,667	34.4	197,922	23.2
資産合計	1,170,949	100.0	738,154	100.0	854,136	100.0

(単位：千円)

科目	期別		当第3四半期 会計期間末 (平成16年12月31日現在)		前第3四半期 会計期間末 (平成15年12月31日現在)		前事業年度の 要約貸借対照表 (平成16年3月31日現在)	
	金額	構成比	金額	構成比	金額	構成比		
(負債の部)		%		%		%		
流動負債								
1. 営業未払金	24,560		26,583		12,757			
2. 短期借入金	100,000		100,000		180,000			
3. 一年以内返済予定の長期借入金	87,160		61,425		57,525			
4. 未払金	3,959		7,039		986			
5. その他	30,837		15,311		25,056			
流動負債合計	246,518	21.1	210,360	28.5	276,324	32.3		
固定負債								
1. 長期借入金	111,695		112,855		99,265			
2. その他	2,956		4,435		2,956			
固定負債合計	114,651	9.7	117,290	15.9	102,221	12.0		
負債合計	361,170	30.8	327,650	44.4	378,546	44.3		
(資本の部)								
資本金	2,295,985	196.1	1,996,960	270.5	1,996,960	233.8		
資本剰余金	2,078,145	177.5	1,779,120	241.0	1,779,120	208.3		
利益剰余金	3,564,351	304.4	3,365,576	455.9	3,300,489	386.4		
資本合計	809,778	69.2	410,503	55.6	475,590	55.7		
負債資本合計	1,170,949	100.0	738,154	100.0	854,136	100.0		

(2) 第3四半期損益計算書

(単位：千円)

科目	当第3四半期会計期間 (自平成16年4月1日 至平成16年12月31日)		前第3四半期会計期間 (自平成15年4月1日 至平成15年12月31日)		前事業年度の 要約損益計算書 (自平成15年4月1日 至平成16年3月31日)	
	金額	百分比	金額	百分比	金額	百分比
売上高	298,756	100.0	543,770	100.0	744,427	100.0
売上原価	144,411	48.3	177,916	32.7	242,869	32.6
売上総利益	154,345	51.7	365,854	67.3	501,558	67.4
販売費及び一般管理費	351,355	117.6	296,602	54.5	384,890	51.7
営業利益又は営業損失()	197,009	65.9	69,251	12.8	116,668	15.7
営業外収益	1,863	0.6	7,872	1.4	8,235	1.1
営業外費用	22,942	7.7	44,354	8.2	55,311	7.4
経常利益又は経常損失()	218,088	73.0	32,768	6.0	69,591	9.4
特別利益	-		3,416	0.6	2,575	0.3
特別損失	-		6,869	1.2	21,637	2.9
税引前第3四半期(当期)純利益又は純損失()	218,088	73.0	29,315	5.4	50,529	6.8
法人税、住民税及び事業税	1,425	0.5	1,425	0.3	1,900	0.3
法人税等調整額	44,347	14.8	-	-	44,347	6.0
第3四半期(当期)純利益又は純損失()	263,861	88.3	27,890	5.1	92,976	12.5

(参考最近における四半期毎の業績の推移)

平成17年3月期

	第1四半期	第2四半期	第3四半期
	16年4月～16年6月	16年7月～16年9月	16年10月～16年12月
	百万円	百万円	百万円
売上高	57	110	130
売上総利益	16	67	70
営業損益	106	50	39
経常損益	107	62	47
税引前四半期純損益	107	62	47
四半期純損益	108	107	47
	円 銭	円 銭	円 銭
1株当たり四半期純損益	1,692.05	1,682.03	741.30
潜在株式調整後1株当たり四半期純利益	-	-	-
	百万円	百万円	百万円
総資産	733	616	1,170
株主資本	367	259	809
	円 銭	円 銭	円 銭
1株当たり株主資本	5,737.18	4,055.15	11,166.90

(注) 1株当たり四半期純損益については、平成16年11月19日に行われた株式分割が期首に行われたと仮定した場合の数値を記載しております。